

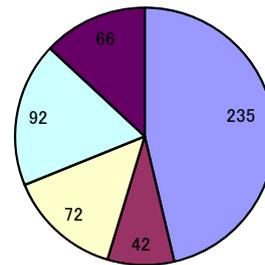
景気動向

業況は横ばい。
先行きは製造業で悪化、非製造業では横ばいの見通し。

- 調査時点 平成22年10月調査(平成22年9月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 507社(回答率:63.4%)
(製造業235社、建設業42社、卸売業72社、
小売業92社、サービス業66社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	235
建設業	42
卸売業	72
小売業	92
サービス業	66



- 製造業
- 建設業
- 卸売業
- 小売業
- サービス業

<全産業>

全産業の業況DI(▲24.1)は、前回(▲20.8)とほぼ同水準を示した。
業種別では製造業の業況DI(▲6.0)は、前回(+3.7)と比べてわずかに9.7ポイント悪化した。
小売業の業況DIも前回に比べてわずかに悪化を示したが、建設業、卸売業はわずかに改善、サービス業は横ばいを示した。
各業種からは、「今夏の猛暑のため、業界全体の売上は低調であった」という声や「円高により利益をすべて奪われている」という声があった。
3か月先見通しは、製造業で悪化を見通しているのに対し、非製造業は横ばいを見通している。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
9月末時点	-24.1	-20.9	-31.3	-20.9
6月末時点	-20.8	-22.2	-25.9	-17.9
前回比	-3.3	1.3	-5.4	-3.0

■全産業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	21.7	21.0
悪化	45.8	41.8
DI値	-24.1	-20.8
前回比	-3.3	5.9

■9月末時点からみた全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	6.9
悪化	43.8
DI値	-36.9

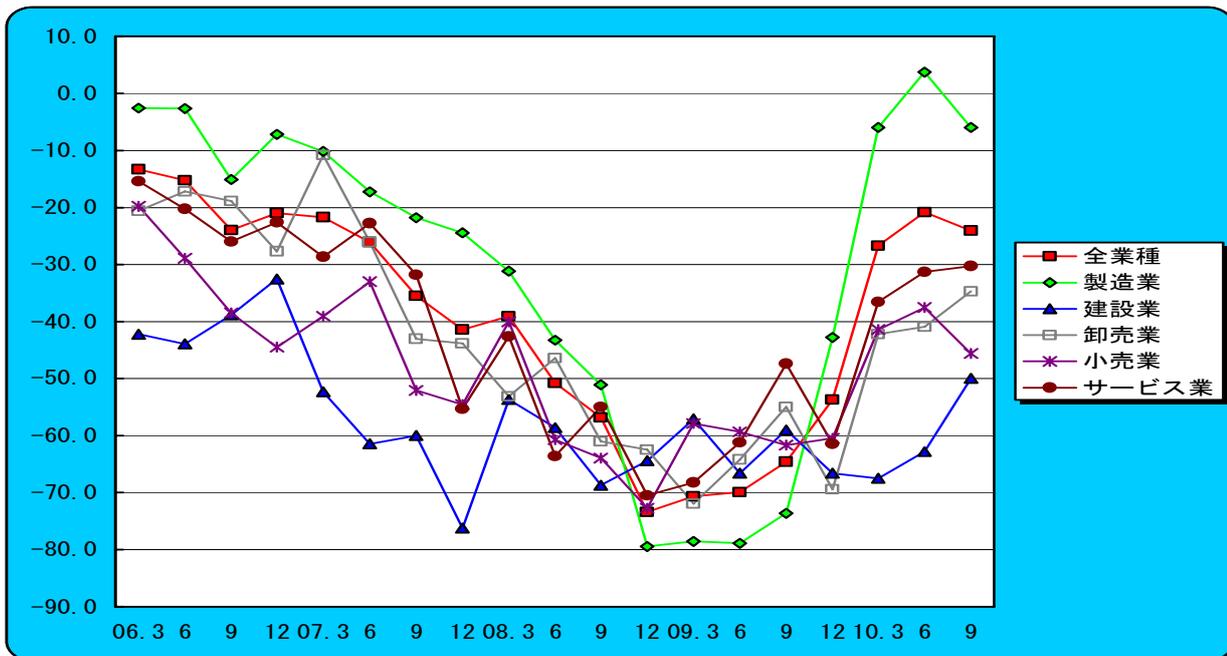
■製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	32.3	37.2
悪化	38.3	33.5
DI値	-6.0	3.7
前回比	-9.7	9.7

■非製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	12.5	7.7
悪化	52.2	48.7
DI値	-39.7	-41.0
前回比	1.3	3.6

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	-6.0
先行き	-37.9
前回比	-9.7

対象企業	359
回答企業	235

業況・売上・採算はわずかに悪化、資金繰りは横ばいを示した。

業種別にみると「縫製」「印刷」「金属」「一般機械」の業況はわずかに改善を示しているが、「木材・木製品」「窯業・土石」「鉄鋼・非鉄」「電気機器」「輸送用機器」「精密機器」の業況はわずかに悪化、「酒造」「ニット」「プラスチック」の業況は悪化、「織物」は大幅悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上で悪化、採算・資金繰りでわずかに悪化の見通しを示している。

業種別にみると「食品」「窯業・土石」の業況はわずかに改善、「酒造」「縫製」は改善、「織物」は大幅改善を見通している。一方で「木材・木製品」「印刷」の業況はわずかに悪化、「一般機械」「プラスチック」は悪化、「鉄鋼・非鉄」「金属」「電気機器」「輸送用機器」「精密機器」は大幅悪化を見通している。

「円高、株安の状況下、国内景気の先行きが見えない」「仕事が激減している」「受注が決まっても原価割れである」といった声があった。

自由意見

製造業

○雇用創出につながるような政策を期待したい。	【食品】
○3ヶ月先の予想を悪化としましたが、季節的要因が主たるものです。	【食品】
○今夏の猛暑のため、業界全体の売上は低調であった。当社の3ヶ月先の見通しは、全般的に少しずつ良好になる予想である。	【食品】
○円高等により輸出環境が悪化している。また、不況により国内需要・販売単価が低下している。	【酒造】
○3ヶ月先の予想で業況、売上高、採算を「同じ」としたのは努力目標である。資金繰り(「良化」と予想)は条件変更交渉がうまく進んだ場合である。	【酒造】
○3ヶ月先の予想を「良化」「同じ」としたのは、単に需要期に当たるためである。	【織物】
○秋冬物時期に入り、受注もようやく最盛期を迎え、一息ついている状況です。	【縫製】
○経営環境の先々がまったく見えない。	【木材・木製品】
○銀行にはいろいろとお世話になっておりますが、会社の業況が良くならなければどうしようもありません。	【印刷】
○仕事が激減している。事業規模の縮小が必要かもしれない。	【印刷】
○前年(H21年)が例年に比較すると大幅な落ち込みであったので、今年については一昨年(H20年)やH19年度と同じ位だが良化と記入せざるを得ない。実態はかなり苦しい状況下にある。販売価格に転嫁できない状況である。	【窯業・土石】
○円高等への対応を速やかに行ってほしい。	【窯業・土石】
○先の見通しが立たず、借入金返済等に不安がある。	【鉄鋼・非鉄】
○主原料(材料)が投機対象の非鉄なので、価格が不安定である。	【鉄鋼・非鉄】
○円高の影響が下半期に出てくものと予想される。	【鉄鋼・非鉄】
○円高により利益を全て奪われている。	【金属】
○円高でコストダウンを要求され、採算が合わないレベルまで単価が下がっている。1ドル=95円程度が望ましいと思う。	【一般機械】
○3ヶ月先は、全く予想が付きません。	【一般機械】
○発注企業が海外移転の傾向にあり、国内下請企業の空洞化が懸念される。	【一般機械】

○円高、株安の状況下、国内景気の先行きが見えない。製造業の海外移転に歯止めがかからず先行きは不安である。	【電気機器】
○景気は益々悪化傾向にあります。	【電気機器】
○昨年の受注不足により社内ワークシェアリングを行ったが、ベテラン社員(3年以上勤続者)数名が退職してしまい、今年 の受注増への対応が良好でない。緊急的に求人や派遣での対応を行っているが、キャリア不足でビジネスチャンス 逃がしている。	【電気機器】
○7.8月よりも受注減少になりました。先行きも減少が予想されます。	【電気機器】
○購入部品の入荷(納期)が必要以上にかかって困難をきたしている。	【電気機器】
○3ヶ月先の見通しを「悪化」としたのは、今が踊り場でやや業況が下に向くという予想をしたためです。また、鋼材の 値上げにより仕入単価が上昇しています。	【輸送用機器】
○現時点では円高の影響はあまり大きく出ていませんが、10月以降は大幅な受注減になります。	【精密機器】
○2~3ヶ月先の事が益々不透明になってきている。為替、株式、地方経済と何を見ても明るい材料がなく不安だけが残る。	【精密機器】
○経営上の問題は昨年同様で、今後益々低迷すると考えられ、後継する事が不可能です。	【プラスチック】
○全体的にシュリンク(萎縮)している状態で、この円高は、今後大変悪い状況に行くと考えられる。	【プラスチック】
○受注が決まっても原価割れである。	【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-50.0
先行き	-40.5
前回比	12.8

対象企業	68
回答企業	42

業況・売上・採算はわずかに改善、資金繰りはわずかに悪化を示した。
業種別にみると「土木」は業況でわずかに改善を示したのに対し、資金繰りはわずかに悪化を示した。「建築」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいてわずかに改善を示した。

3か月先見通しの業況・売上・資金繰りはわずかに改善、採算は横ばいを見通している。

業種別にみると「土木」は業況・売上・資金繰りでわずかに改善、採算で横ばいを見通している。「建築」は売上でわずかに改善、業況・採算・資金繰りでは横ばいを見通している。

「大手企業が地場業者をかなり圧迫している」との声がある一方で、「PB商品、HP受注は良好です」といった声があった。

自由意見

建設業

○4~7月は受注が減少したが、8月以降は順調である。今後は平準化を望みたい。	【土木】
○将来、日本の国は仕事が無くなる。東アジアが急成長して先進国を追い越すだろう。	【土木】
○大手企業が地場業者をかなり圧迫している。	【建築】
○大手ゼネコンの地方でのダンピングが激しい	【建築】
○PB商品、HP受注は良好です。	【建築】
○地場企業は地元業者よりも価格を優先し、安値の首都圏業者に発注しているのが現状である。	【建築】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-34.7
先行き	-34.7
前回比	6.2

対象企業	109
回答企業	72

業況・売上・採算はわずかに改善、資金繰りはわずかに悪化を示した。
業種別にみると、業況は「青果物」で改善、「機械器具」でわずかに改善を示したが、「鮮魚」「建築材料」はわずかに悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて横ばいの見通しを示した。

業種別にみると「衣服」は売上・採算でわずかに改善、資金繰りで改善を見通し、「飲食料」は採算・資金繰りでわずかに改善を見通している。

「メーカーが在庫を持たないので、部品(特に電子部品)の調達に期間を要し、納期が大幅に遅くなっている」という声があった。

自由意見

卸売業

○ディスカウント店が最近オープンしたため、競争が更に激しくなっている。	【飲食料】
○景気の閉塞感が漂い、先行きが不気味である。	【機械器具】
○メーカーが在庫を持たないので、部品(特に電子部品)の調達に期間を要し、納期が大幅に遅くなっている。	【機械器具】
○木材使用住宅の着工数減で、住宅用木材・家具用材の荷動きが鈍化している。積極的な販売を行いたいのが、与信問題等で慎重にならざるを得ない。	【建築材料】

<小売業>

業況DI値	
今回	-45.6
先行き	-39.1
前回比	-8.1

対象企業	156
回答企業	92

業況でわずかに悪化を示したが、売上・採算・資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「自動車販売」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて悪化を示し、「家具・建具」「大規模店」も業況・売上・採算で悪化傾向を示した。を示したが「自動車販売」は業況・採算・資金繰りで悪化傾向を示した。「中小スーパー」「家電品」でも業況・採算で悪化傾向を示した。

3か月先見通しは、業況でわずかに改善、売上・採算・資金繰りでは横ばいを見通している。

業種別にみると「飲食料」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を見通し、「衣料」は業況で改善、売上・採算・資金繰りでは横ばいを見通している。

「低価格品だけでなく、高級品も安売りや目玉商品になってしまい、採算が悪化している」「市街地に人が集まらないので、商店街や地域が一体となって集客を図ってほしい」「借入金返済に困窮している」という声がある反面、「リーマン・ショック時より良好に推移している」という声もあった。

自由意見

小売業

- 高速道路料金が土日両日千円になったために、遠出をする人が多くなって南会津方面には来なくなり、売上が激減している。【中小スーパー】
- 近隣の日用大工関係の取扱店で食料品も販売しているため、苦戦している。【中小スーパー】
- 市街地に人が集まらないので、商店街や地域が一体となって集客を図る必要がある。【衣料】
- 売上の低下と人件費の上昇で資金繰りの財源が出ず、資金が不足している状態が続いています。【飲食料】
- 昨年は、シルバーウィーク等の大型連休があり売上が好調でしたが、本年はなく、雨や台風等にもたたられ売上不振が続いています。【飲食料】
- 今年の7～9月は近年にない猛暑で売上が激減し、資金繰りが悪化したが、制度資金(金融公庫)を借入れ出来たので、なんとか持ちこたえられた。【飲食料】
- 悪いです。【飲食料】
- 長引く景気低迷に加え、先行きが見えない世界経済に不安を感じ、金が使えない状況です。デフレスパイラルで益々ひどくなる予想です。【飲食料】
- 量販店の攻勢がすごい。【家電品】
- 低価格品だけでなく、高級品も安売りや目玉商品になってしまい、採算が悪化している。【家電品】
- 借入金返済に困窮している。【家電品】
- 月々の借入金返済額が多く、金利負担分が厳しい。【自動車販売】
- 米穀価格の下落に伴い、肥料・農薬等資材の単価が大幅に下がり始めている。【その他】
- リーマン・ショック時より良好に推移している。【その他】
- 長引いた猛暑の後で、購買意欲も夏バテ気味か。今まで少々良かった都市部も良くない。【その他】
- 客単価が減少している(お金を使わなくなった)。来店客数は変わらないが、レジ通過(売上)が落ち込んでいる。【その他】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-30.3
先行き	-30.3
前回比	1.0

対象企業	108
回答企業	66

売上はわずかに改善、採算・資金繰りはわずかに悪化、業況は横ばいを示した。業種別にみると「自動車整備」は、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて悪化傾向を示したが、「タクシー」は、業況・売上・資金繰りで改善傾向を示した。「情報サービス」は売上で改善、業況・採算では悪化を示した。「運送」も資金繰りでわずかに改善を示したが、採算はわずかに悪化を示した。

3か月先見通しの資金繰りはわずかに改善、売上はわずかに悪化、業況・採算は横ばいを見通している。

業種別にみると「観光旅館」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を見通している。「タクシー」は業況・売上でわずかに悪化、採算・資金繰りでわずかに改善を見通している。「情報サービス」は、業況ではわずかに改善、売上で悪化を見通している。

「依然としてデフレ状態が続いている」「企業活動や個人消費の低迷により販売単価が下がり、採算に影響が出ている」「全体的に仕事量が少ない」という声があった。

自由意見

サービス業

- 企業活動や個人消費の低迷により販売単価が下がり、採算に影響が出ている。そのため損益分岐点を下げる努力を重ねている。地域産業の振興政策を望む。【旅館・ホテル】
- 依然としてデフレ状況は続いています。【タクシー】
- 9月の単月では売上高は上昇傾向であったが、上半期(4～9月)では下降であった。客数、売上高においても全体的

には減少している。	【タクシー】
○全般的に仕事量が少ない。我々弱小企業にはシワ寄せがてきめんとなっています。さらに金利の負担も大変重荷です。	【運送】
○燃料について、円高のため安くなるはずが下がらない。どうしたものか。	【運送】
○人口減少により、客数が減少している。	【自動車整備】
○団塊の世代の退職により、退職金の支払など経費の支出が増えています。当地域では工場の閉鎖や倒産が相次ぎ、閉塞感も増して消費が更に押さえつけられているように思います。	【自動車整備】
○リニューアル5年を迎え、微力ながら確実に事業計画を守り努力しています。又、組織作りと共に民間車検場の実現に向け、社内から検査員合格者を出すことができました。	【自動車整備】
○「全世帯光化」が2020年以降に先送りになった為、通信業界は来年5月以降仕事が無くなる。	【情報サービス】
○裏磐梯への観光客数は変わらないようですが、宿泊客数は3割以上の減少となるような状況です。当社の誘客努力だけでは限界で、地域の活性化により誘客を図っていく必要がある。	【情報サービス】
○上がり下がりを繰り返しながらも、やはりゆるやかに停滞している状況です。	【情報サービス】
○現在、燃料代は落ち着いているが、価格上昇となるとますます悪化が予想される。	【その他】